

ヨーロッパにおける移民排除と安全保障・軍事化政策
—2015年・2016年におけるスロベニアの難民問題を事例として—

アレス・ブカー・ラクマン

金城真理訳、青木秀男監訳

Securitization and Militarization of Migration Management in Europe:

The Case of Refugee Migration through Slovenia

in 2015/2016

Aleš Bučar Ručman

日本の読者への特別序文

本稿は、ヨーロッパへの難民の移住について、2015年～16年に行った調査による知見をもとに書かれたものである。ヨーロッパ(正確にはいくつかのEU加盟国)に、第二次世界大戦以来、最大数の難民が流入している。それぞれの国や社会が、それぞれの方法でこの問題に対処している。権力をもつ人々も一般の人々も、その多くが、これはまさに安全保障に関わる問題であると考えている。難民が歓迎され、受け入れられることはあった。しかしすぐに、各国が、この「問題」を「われわれの問題ではない」というNIMBYの態度で、たらい回しにするようになった。この問題に関わって、この間、ヨーロッパは、不寛容、外国人嫌悪、ヘイト・スピーチ、暴力などが横行する最悪の状況にあった。私は、難民問題は、日本の読者にとっても重要な問題であると思っている。日本人の研究仲間や一般の人々、日本在住のヨーロッパ人とこの問題について話してきたが、日本人の会話でこの問題に及ぶことがあまりないことに気づいた。日本はヨーロッパと地理的に離れているので、社会的にもメディアでも、この問題への関心が低いのであろう。ヨーロッパのメディアは、この問題をいつも報道せざるをえない状況にある(報道はたいてい偏向しており、難民問題を報道する義務があるという強迫観念にかられてのものであるが)。これに対して、日本では、別の問題の方が重要なのであろう。だからこそ、私は、拙稿を日本語で刊行することはいいことだと思う。拙稿を読んで、難民問題について話す契機になるかもしれないし、難民問題に関する知識と情報を広める機会になるかもしれない。さ

らに、援助を必要とする人々や権力をもたない人々（この場合は難民）に対する社会の態度には、「社会の精神」（現にある価値や規範）が投影されている。またそこに、その他の無力な人々（たとえば少数民族などの民族的マイノリティ、障がい者、貧困層、老人、女性など）がどのような境遇にあるのかを知ることができる。経済先進国の難民に対する今日の姿勢を見ると（まれに例外はあるが）、現代の人間のあり様について理解が十分でなく、国境を超えた連帯も十分でないことがよく分かる。これが、日本の読者に難民問題に関心をもってほしいもう一つの理由である。日本は、国連難民高等弁務官事務所〔UNHCR, 2017:7〕への最大の援助国でありながら、実際には、経済先進国の中でも難民保護にもっとも厳しい政策をとっている。その結果、日本が受け入れる難民はとても少なく、難民保護の申請は、年間わずかに数十件しか承認されていない。日本のように、難民を受け入れるよりも金で援助する方法は、珍しいことではなく、一部のヨーロッパ諸国も同じ方法を取っている。しかしそれは、基本的な安全保障と人間の生存権を商品化するやり方であり、問題だと思う。歴史が教えているように、戦争や政治的迫害はもとより、自然災害やその他の災害でさえ、いつ私たち自身が保護を必要とする状態に陥るかは、だれも分らない。

I 移民と移住はどのように第一級の安全保障の問題になったのか

主権とは、一時のことであれ、だれがその領土に入り、行き来し、住むことが許されるかを定める国家の権利と権力をいう。ドヴァーニュ¹⁾が指摘するように、移民法とその施行は、「国家主権の最後の砦」となっている。しかし、ウォーラスティン²⁾が観察するように、理論的には、すべての国が主権をもつとされながら、強い国家は、弱い国家の主権に介入して、たいいてい、前者の利害に沿った意思決定や政策を後者に押しつけている。それは、過去20年間の直接・間接の経済的な干渉に明らかなだけでなく、移民統制の領域においても明らかである。西欧諸国は、「国際的な問題についても管理と統制を強めて」³⁾おり、国境を超える移住を統制する複雑なシステムをつくり上げている。その過程で、中核国は、移住する人々の人権侵害や劣悪な処遇には頼りきりして、近隣諸国と協力するとして、移住をめぐる政治的な難題をそれらの国々に押しつけている⁴⁾。このように中核国は、グローバリゼーションが国民国家に与える全般的な圧迫に対抗している。また、国内外のグローバリゼーションの擁護者やそこから利益を得ている人々に応えている。グローバリゼーションは、中核国の政治過程や、主権概念さえ変容させている。グローバリゼーションの下、国家は「弱い国家」⁵⁾になった。経

済は、力を失った政治から自立し、国家の諸制度の役割は、なによりも、グローバルなビジネスがうまくいく条件を整備するものとなった。しかし、ここに明らかなパラドックスがある。一方で、国家は弱体化しており、国家の統治や規制は後退している。他方で、国家の統制と抑圧の役割は強まっている。バリバール⁶⁾は、これを「全能者の無力症候群」と呼んでいる。すなわち、私たちは、「国家の撤退」を見ているのではなく、主権とその行使が変容する様を見ている⁷⁾。それは、とりわけ移民政策に表れている。

今や「人口に膾炙した言葉」⁸⁾新自由主義と、その不可分の盟友であるグローバル化の影響のもと、国家は、経済や労働市場、社会保障、教育、保健医療、生活の安定、(個人の)安全保障⁹⁾から撤退し、その代わりに、少数民族や外国人、移民労働者、「不法」移民、亡命希望者、難民などの周縁化された人々、すなわち周縁化された「他者」をますます統制し、抑圧している。かれらは、そのような政策の完全な犠牲者であり、安定して平等な賃労働が不安定で不平等な賃労働へ移行するなかで生じる「社会全体の不安」を、身をもって表している¹⁰⁾。社会の絆と人間の連帯が弛緩し、制度的な保護ネットが拡散し、断絶感が広がり、将来の生活安定が自己責任とされて、社会はますます不平等になった。他方で、すぐにでも経済的な儲けを得ることが、重要な指標となり、成功を測る尺度となった。バウマン¹¹⁾が、2015年～2016年の難民流入を分析して述べたように、難民を受け入れた地域の人々は、自分の存在の拠り所が確信できず、不安の感覚に襲われるようになった。また、労働市場での厳しい競争にさらされて、不安定になり、状況の好転が望めなくなった。イギリスの元首相であり、新自由主義の主唱者であったマーガレット・サッチャーは、このことを次のように言っている。「社会というものがない」状況においては、人々は、新たな人々の流入に抵抗するようになる。流入する人々との連帯など、ほとんどなくなっていく。

犯罪と安全保障への脅威が醸成され、増幅され、それらにどう対処し、解決するかに関心が高まっている。国家は、それらの問題を解決することで、みずからの権力と権威の正当性を高めることができている¹²⁾。そして、「他の政治領域において政策の主導権を失っているという自己認識」を払拭しようとする¹³⁾。「政治エリート」¹⁴⁾は、「刑罰に訴える政策を多用する」ようになる。それは、国家が変容し、事実上新たな主権が生じたことへの官僚的な応答としてある。そして、国境の監視と、「われわれ」と「やつら」の分断が強まっていく。その結果、排除が進むだけではない。その政策は、地域づくりや管理の分野にも適用されていく。それだけではない。それは、EUの統合を高め、一国を超えた政治構造と協力体制を創出する手段になっ

ていく¹⁵⁾。人々は、みずから生んだ脅威のイメージと闘うために、共同戦線を張り、国家の主権と、統制・規律権力の正当性を確かなものにしていく。その統制と規律の矛先は、まず移民や難民、亡命希望者、次にプロレタリアに向けられていく¹⁶⁾。権力をもつ人々は、トリックを用いて、子ども騙しのマジックのように人々の注意を逸らしていく。かれらは、新自由主義的なグローバリゼーションが生んだすべての社会構造の問題から人々の目を逸らしていく。そして、深刻になる一方の問題に目を向けさせるのではなく、無力な人々のあれこれのたわいのない行為にスポットライトを当てていく¹⁷⁾。それは、「自分で自分の首を絞めるような政策であり、いつか爆破する爆弾を仕掛ける」ような¹⁸⁾、安易で短絡的な統治の方法である。ラホラ¹⁹⁾によれば、ヨーロッパでは、1930年代までは、外国人嫌悪のナショナリズムはなかった。そして状況は、ラホラがそう書いた数年後にはいっそう悪化した。それは、政治エリートが、階級よりもエスニシティを重視する分断政策を進めたことと、おおいに関係がある。換言すれば、それは、マキアヴェリ式の分断統治であり、大衆をますます権力へ取り込むものである。そのような分断統治は、国民と民族のアイデンティティを利用(悪用)し、「やつら」をまるごと犠牲にすることで、容易に可能となる。

政策立案は、ポピュリストに気に入るものになり、不安を煽られて怯える人々の支持を得るようになった。国により違いはあるものの、この傾向は共通してみられる。それは、一方で厳格な犯罪の統制政策に²⁰⁾、他方で厳しい移民政策と移民統制に著しい。これら2つの統制政策は、大きく重なり合っている。その重なりは、偶然どころではない。アース²¹⁾は、国家の犯罪政策が一貫性をもたなくなり、同時に、新たな犯罪統制が必要な事態に直面していると述べている。犯罪統制は、「われわれ」のそれと「やつら」のそれ、一国的なそれとグローバルなそれ、国内のそれと国境のそれが、渾然一体となった。それは、不平等がグローバルになり、西欧諸国が力量に応じて不平等を解決するという、グローバルな条件から生じたものである²²⁾。

犯罪法と移民法を重ねて施行する事態は、スタンプ²³⁾の造語「犯罪移民」(crimmigration)が、よくその本質を捉えている。しかし、ここで重要なのは、移民や犯罪、安全保障、統制の間の関係・繋がりを、法や刑法の視点を超え、犯罪に関係ない問題を含めて、より広い視点から捉えることである²⁴⁾。メロッシ²⁵⁾が、「どこまで移民を犯罪視するかによって、移民を法的・経済的・社会的・文化的にどう扱うかが決まる」と書いたが、それもこの文脈での話である。文化的アイデンティティや安全保障、安全、福祉国家、経済、公衆衛生のいずれも、脅威のもとにある。その脅威をもたらしした罪と責任は、

しばしば移民や亡命希望者、難民に課せられる。それは、とくに2015年～2016年にヨーロッパにきた難民についていえる。驚くことに、他の点では批判的で進歩的な学者²⁶⁾さえ、そのような論陣を張っている。かれらは、自国民と移民が文化的に調和することはないと言って、「やつら」のステレオタイプを追認している。難民は、政治的に保護されず、差異のない大衆、抽象的な人々、「危険な集団」²⁷⁾、さらに「ヨーロッパの境界に押し寄せる安全保障の脅威」などとみられ、そのように扱われている²⁸⁾。移民は、完全に身代りで犠牲になった人々、すなわち、国内の統合を守るために犠牲になった人々である²⁹⁾。

Ⅱ 21世紀のヨーロッパにおける移民管理

移民管理について詳細に見ると、移民は、つねに望ましくない人々、不快な人々、ゆえに流入を禁ずべき人々と思われているわけではない。コーエン³⁰⁾によれば、現代国家は、他国から来た多様な移民を識別しており、知識や技術をもつ専門家と同様、移民が流入するのを容認し、積極的に招き入れることさえある。さらに、移民を国家の一員として招き入れ、かれらに市民権や社会権を与えることもある。ただし同時に、それは、他の人々を排除しながらである。その時、その排除は、もっとも非寛容なやり方で行われる。移民にあれこれと要求が容赦なく出され、そのため移民は、しばしば過酷な境遇に追いやられる³¹⁾。ここに現代の移民政策をめぐるパラドクス、政府が直面する深刻な矛盾がある。一方に、国境の安全保障を強化しようという衝動があり、他方に、自由な人口移動を進めたいというグローバリゼーションと資本主義経済の要請がある³²⁾。国家は、海外からの消費者、投資家、ビジネスマンはもとより、合法・「違法」の移民労働者が、国内経済や労働市場のニーズと要求を満たすよう努めている³³⁾。そのため、「だれを移民として受け入れるか」を選別する、すなわち、ウェーバーとポリング³⁴⁾がいう「社会的選別」にかける。それが、移民を管理・統制するシステム全体の第一の役割になる³⁵⁾。その狙いは、「特定の人々を隔離し、統制し、選別し、統治する」ことにある³⁶⁾。移民管理システムにより、移動する人々が、世界のどこへも行けて、どこでも歓迎される「旅行者」と、嫌われ者で世界のくず同然の「放浪者」³⁷⁾に、カジャ・フランコ・アース³⁸⁾の言葉でいえば、「真の旅行者」と「犯罪移民」に選別される。移民管理システムは、多様なレベルで作動するが、選別の最後の場面は、国境である。システムはそこで、グローバルな人口の流れは受け入れるが、望ましくない「残りかす」の人々は受け入れないという、被膜の役割を果たす³⁹⁾。

移民を安全保障の問題とみなす考えは、移民が統制できなければ社会は崩壊する、ゆえに、流入は阻止すべきだという確信の上にある⁴⁰⁾。国際社会は、第二次世界大戦の痛苦な経験を反省し、将来に同じ残虐行為を繰り返すことのないようにと、難民保護のシステムをつくり上げた。しかしそれはいま、私たちの目前で崩壊の危機にある。EU(欧州共同体)が、おもにシリア、イラク、アフガニスタンの難民の排除を狙った2015年には、最悪の状況にあった。その時、2つの世界が浮彫りになった。包摂される人々の世界と排除される人々の世界である。そして、特定の人々を他者化し⁴¹⁾、人間扱いしない⁴²⁾メカニズムが生れた。それは、優しいヨーロッパ人なら、外から来た人々を助けて当然という、従来の道徳的な義務が失われた証であった。9.11とヨーロッパでのテロ攻撃の後、完璧に犠牲にされた人々、非難され、烙印を押された人々、すなわち、ムスリムの移民(および難民)とその子どもたちが現れた。国家の対応と対テロ戦争の諸政策も、これらの移民の世間における印象操作に寄与した。その時、難民の移動は、どこでも、偽の亡命希望者か社会の寄生者、国民の仕事を奪い、賃金を引き下げる者の移動と思われた。さらに、過激派かテロリストがEUに侵入するとさえ思われた⁴³⁾。難民は、人権が正当に保障される人々⁴⁴⁾の部類から排除され、アガンベン⁴⁵⁾がホモ・サケル(社会から完全に放逐された人/訳注)と呼んだ人々の部類に括られた。こうして、移民問題を安全保障の問題とする政策により、人々を不寛容に扱い、権力を濫用し、人々を欺くような状況が、徐々に、しかし確実に広がった。そして、暴力的で好戦的な行動が取られ、それが上(政府)から下(大衆)へ正当化され、繰り返されるようになった(たとえば2015年~2016年のドイツで、難民やかれらの家、難民センター、モスクへの襲撃が相次いだ)⁴⁶⁾。

政治的利益を生む諸問題が、このような移住・移民の政策のもと、ポピュリストの都合のいいように扱われていった。その結果、特別に囲い込まれた空間が現れた。それをグローバルかつ国内的な全制的施設と呼ぶことにしよう。それは、ゴフマン⁴⁷⁾の全制的施設(収容者を社会的・物理的に隔離し、その生活を包括的に統制する施設/訳注)とその精神が似ており、その外見さえ似ている。ゴフマンの全制的施設では、ドアがロックされ、高いフェンスがあり、有刺鉄線が張られ、それに相応する運営がなされた。EUの境界線を囲むフェンスも、それと似たものである。2015年以後は、EUの加盟国間(ハンガリーとクロアチア、スロベニアとクロアチア)の国境にも、フェンスがつくられた。さらに、亡命希望者、不法移民の拘留センターや難民センターは、刑務所ようになった。そしてそれが、今日の移民政策とその施行の基本的要素になった。このような国境と全制的施設の管理は、直接に繋

がっている。それらのシステムの第一の役割は排除であり、視界隔離（見える場所から覆い隠すこと／訳注）である⁴⁸⁾。好ましくない人々や、難民、追放された外国人、住むことを「拒まれた」⁴⁹⁾外国人などを遠ざける、パウマン⁵⁰⁾の用語でいえば、「人間のごみ、またはごみとして廃棄された人間」を排除し、国内に入れられないようにする。さらに、経済的に収奪された集団（階級）が国境を超えて移動するには、このような移民政策だけではなく、経済・社会資本による制約がある⁵¹⁾。もっとも貧しい人々には、明らかに、グローバルな全制的施設を出る機会さえない。シリアやイラク、アフガニスタンの難民が、トルコを経てギリシャの島々へ密航し、そこからさらにバルカン半島とスロベニアを経てEUへ入ろうとした。かれらこそ、まさにここでいう排除された人々である。そして、3,000ユーロ*¹がない人々は、最初から移動することができず、難民として旅することもできなかった⁵²⁾。

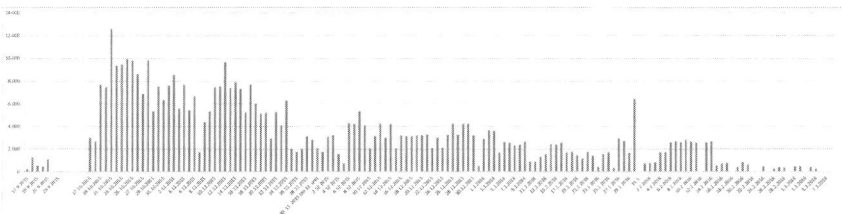
Ⅲ 2015年～2016年にスロベニアを通過した難民

シリアやイラクにおける戦争のため、ヨーロッパでは、第二次世界大戦後で最大数の難民が流入した。2014年の3月以前に、ヨーロッパ38カ国へのシリアの亡命申請者は、10万人に満たなかった。しかし、2015年の夏に亡命希望者が急増したのを皮切りに、わずか3年で93万人を超えた。亡命申請者がもっとも多かったのは、ドイツ（50万人）とスウェーデン（10万人）であった⁵³⁾。なぜ2015年に亡命申請者が増えたのだろうか。なるほどと思える説明は、いくつかある。パチェスラ⁵⁴⁾は、それは、ヨーロッパが難民の流入を禁じる政策を取ったこと（ゆえに申請者が増加した／訳注）、国境を超える人々のための本格的な再居住プログラムがなかったこと、難民を受け入れるに十分な生活条件が保障できなかったこと、紛争地域から来た難民の将来に展望がなかったことなどが、重なりあって影響した結果であると述べた。筆者は、スロベニアを通過する難民に面接を行ったが、かれらから得られた情報により、さらに詳細な事情が分かった。また、筆者が準拠する移民ネットワーク理論を検証することができた⁵⁵⁾。最初にヨーロッパで亡命申請をした難民は、首尾よく施設に入ることができた。しかし同時に、移動する間、また目的の国に着いた後も、その先どうなるか分からないという大きなリスクを抱えることになった。その後、かれらは、親族や友人、さらに広く故郷の人々にヨーロッパの情報を伝えた。その結果、移民がどんどん続いていった。また、ドイツに来ることを勧められた。かれらは、少なくともそう理解していた。これらすべてのことは、政治的観点からも考察する必要がある。トルコ政府には、難民や他のマイノリティを生政治（biopolitics）人間の

精神と身体を支配する政治／訳注)の手段とし、また、EUと交渉する材料として利用したいという思惑があった。ギリシャでは、経済が破綻し、制度が機能せず、そのため、難民の流れを阻止する最前線の役割が果たせなかったし、その気もなかった。さらにEUは、もちろん結束して行動することができなかった。

難民や移民は、北欧諸国へ移動したが、その際、業者が、トルコからギリシャの島々へ密航する人々を助けた。この危険な、しばしば死者さえ出た旅を終えて北欧諸国へ着いた時、ドアは開かれていた(少なくとも2016年3月までは)。ヨーロッパへ来ることはできたが、まず海上で命を危険にさらし、次は路傍で悪戦苦闘し、数千キロごとの検問所で厳しくチェックされて、屈辱を受けた。かれらは、これらの苦難を経て「ようやく」ヨーロッパへ来ることができた。2015年の夏～2016年の春に、シリア、イラク、アフガニスタンの難民は、その後、エジプト、モロッコ、レバノン、ソマリア、エリトリアの難民が加わって⁵⁶⁾、トルコ、ギリシャ、旧ユーゴスラビア・マケドニア、セルビア、ハンガリー、オーストリアそしてドイツを経て、中央ヨーロッパや北ヨーロッパの国々へ着いた。ハンガリー当局は、セルビアとの国境線にフェンスを立てた。2015年9月半ば、国境線の全体にフェンスが完成すると、移民の流れは、クロアチアへ、クロアチアからハンガリーへ、さらにオーストリアへ方向転換した。同年10月半ば、ハンガリー政府は、EU加盟国の隣国クロアチアとの国境にフェンスを立てた。それ以来、移民の経路は、もっぱらクロアチア、スロベニア、オーストリアを経由するようになった。この6ヵ月間に、スロベニアとオーストリアを経由する移民は、47.6万人に達した(グラフ1を参照されたい)。

グラフ1 スロベニアへ入った移民の数 [資料:Slovenian Police, 2015] ⁵⁷⁾



人々は各国の国境を超える術を修得して、EUへ道は確実なものになった。同時に、EUの強大国でさえ、大量の移民の流入を防ぐには、国境や国内で強引に人権を侵害することになっても、また、惨事が起きても仕方ないと

思うようになった。また、複雑な移民管理システムは、個人や小集団を扱う場合にのみ、移民の統制、選別、抑止に機能することが明らかになった。2015年10月に、スロベニア警察は国境でシェンゲン協定（ヨーロッパの国家間で審査なしに国境を超えることを許可する協定／訳注）の規則を遵守しているかと聞かれて、警察の上級代表で、後のフロンテクス経営委員会委員長であるマルコ・ガスパーリンは、次のように答えた⁵⁸⁾。

守っているともいないとも言えるでしょうね。通常の国境通過も、国境管理も、すべて規制を遵守して行われています。・・・守っていないと言ったのは、スロベニアへ来るまとまった数の移民は、ほとんどすべてスロベニアを経由し、オーストリアや他の西ヨーロッパ諸国へ輸送されるからです。・・・シェンゲン協定の規則を厳格に遵守することなど不可能です。そんなことをすれば、逆に重大な惨事を生むことになりかねません。

筆者が現地調査を始めたのは、2015年10月のまさにこの時点であった。2015年と2016年の秋と冬に、筆者は、難民の移動に関わるすべての施設（調査時に使われていたもの）を訪ねた（国境通過、登録・受付センター、臨時収容施設）。市民保護・災害救助局（Administration for Civil Protection and Disaster Relief）の許可を受けた後は、9つの施設へ行き、そのいくつかは何度か訪ねて、数時間の面接と雑談と参与観察によりデータを収集した。筆者は、難民収容センター長、市民保護団体のメンバー、警察官、税関職員、兵士、技術支援スタッフ、医療スタッフ、NGO（赤十字社、スロベニア慈善協会、アドラ（Adventist Development and Relief Agency）のボランティア、UNHCRの代表、個人的ボランティア、ジャーナリスト、写真記者、そしてもちろん難民など、さまざまな人に話しかけた。そうして得られた面接・観察データを日記に書き留め、音声編集ソフトに記録し、また、写真のアーカイブを作成した。現場から帰った後は、毎晩、調査日誌を綴った。また、スロベニアを通過する難民の移動に関わるさまざまな言葉（政治、メディア、市民社会の言説、電子空間とソーシャル・メディアの言葉）を収集し、分析した。そして、それらを広い社会文化的な枠組みと解釈のなかに位置づけた。この研究のおもな目的は、スロベニア社会、とくに権力をもつ人々が、国境へ着く難民や移民をどう見ているかについて分析することであった。筆者は、スロベニアに着く人々に対する統制過程に焦点を当て、権力、正確に言えば暴力がどのように行使されているかについて調査し、その問題性について指

摘した。

最初は、状況は混沌としていた。(2015年10月27日までの) ほぼ1週間、クロアチアとスロベニアの間に、難民の処遇に関してとくに協力関係はなかった。そのため、数百人の人々が、国境の「緑地保全地域」を歩いて渡らなければならなかった⁵⁹⁾。その後、状況は変わり、事実上の回廊(難民専用の通過コース/訳注)が設けられた。汽車、時にはバスでスロベニアに着いた人々は、登録センターや臨時収容施設で登録され(名前と、時には写真が登録された)、オーストリアに接する北側の国境の3つ(シェンティリとシュピールフェルドの間、ゴルニャ・ラドゴナとバート・ラクスバークの間、ジェゼニツェ、カラバンケとローゼンバックの間)の出口を経てスロベニアを出た。オーストリアは、2015年12月まで、設置された回廊を通して来た人をすべて受け入れた(それ以外の方法での入国はすべて拒否され、人々は回廊に留め置かれた)。しかしそれ以来、身分証明書などの書類で人々の個人情報を選別し、通訳を使って、書類のない人々の身元確認が始まった。これが、回廊が徐々に閉ざされていく最初の段階であり、2016年3月初めに、マケドニア共和国が規制を強化し、EUがトルコと協定を結ぶと、回廊は閉鎖された。

IV スロベニアにおける移民管理の安全保障化と軍事化

2015年10月に多くの難民がスロベニアに到着して、当局の状況認識は大きく変化した。難民の存在は、人道的な問題ではなく、安全保障上の脅威とみられるようになった。政府は、難民を規制し、権威主義的に処遇する政策をとり、他方で、政策決定者(議員/訳注)やオピニオン・リーダー、メディアは、その状況を都合のいいように利用した。かれらは、(難民の)移住管理を安全保障の問題、軍事の問題とみなした。最後には、人々の間にモラル・パニックが起きた。難民の大多数は、戦争と暴力から逃れてきた人々⁶⁰⁾であった。かれらを統制する仕事は、ただちに警察と軍隊に引き継がれた。最初からすでに、機動隊(暴動鎮圧のための警官隊/訳注)や機関銃で武装した兵士、短期間ではあるが、装甲車さえ出動した。それは、象徴的レベルでの露骨な権力誇示であった。政府は、2004年の国防法(Defend Act)の改正を提案し、わずか4日で国会がこれを採択した(2015年)。そして、軍に国境統制の特別の警察権限が与えられた⁶¹⁾。何人かの人々、少なくとも144,588人(Government of the Republic of Slovenia, 2016a)は、スロベニアに「留まる許可」、すなわちスロベニアを自由に移動することを許可する公式文書を受け取っていた。しかし、他の人々は、スロベニアを通過する

だけであったが、警備された土地の外で、また警備つきの輸送手段以外の方法で自由に移動することは、許されなかった。実際には、難民すべてが、スロベニアにいる間は、いつも勾留に近い状態で移動を統制されていた。かれらは、施設の構内を出ることも、街路の向こうの店に食べ物を買いに行くこともできず、それを地元の人やボランティア、筆者にさえ頼む始末であった。人々は、政府が用意した回廊を経てのみ、スロベニアを通過することができた。ホテルに泊ったり、バスや汽車のチケットを買う金があっても、自分で移動することは許されず、回廊の手順に従わなければならなかった。このようにかれらは、牢獄の受刑者より強大で厳しい力で警備された。機関銃で武装した兵士が、食べ物や衣類の分配さえ監視し、かれらがセンターを離れるのをいつも監視した。難民統制の方法は、収容センターごとに異なったが(あるセンターでは、兵士はおらず、普通の警察官だけがいた。別のセンターでは、兵士は、センターの外に銃を置いていた)、内部化された難民統制の論理は、同じであった。2015年10月末に、筆者は、国境検問所である光景を目撃した。次の描写は、その時の雰囲気을伝えている。

1,000人ほどの難民が、クロアチアから汽車に乗り、午後4時少し前、ドボヴァの国境検問所に到着した。プラットホームには、クロアチアの警察官、スロベニアの警察官と機動隊、スロベニアの兵士、赤十字社のボランティア、通訳者、ジャーナリストがいた。私たちのほぼ全員が、呼吸保護マスクを着用した。私がマスクをちょっと取るたびに、周りの人が、外してはだめですと注意した。それは、移民の中にどんな病気をもつ人がいるか分からないから、という理由であった。難民すべてが、クロアチアの汽車から客車ごとにプラットホームの反対側へ移動した。そこには、スロベニアの汽車がすでに待機していた。客車から出ると、安全チェックが行われ、そして食べ物と水が支給され、スロベニアの汽車に乗った。最初はすべてスムーズに運び、むしろ迅速なほどであったが、これが騒ぎを引き起こした。人々は、きちんと並ばない。歩くべき時に立ち止まる。立ち止まるべき時に歩く。すばやく汽車に乗れないと怒鳴る人もいた。時には、「アッラー、アッラー、アッラー」という叫び声が聞こえた。他方で、多くの女性と子どもがいた。私が見た一番小さな子はわずか生後3日の子で、混乱の中で疲れているようだった。かれらは、しばしば他の人を指さして、「家族、家族」という言葉を繰り返した。かれらは、家族と離れるのを恐れたが、しょっちゅう離れ離れになった。スロベニアの客車が満員になると、どの区画もどの回廊も人

でいっぱいになった。警察官が客車を出て、外からすべてのドアをロックした。汽車がシェンティリに着くまでの4時間、だれも外へ出ることができなかった。同じ手続きが隣の客車でも繰り返され、それが最後尾の客車まで続いた。警察官の会話から、「あと何人かな」と訊ねるのが聞こえた。この混乱の中に、窓から身を乗り出し、泣いて警察官やボランティアに手を振る若い女がいた。だれも彼女に気づかなかった。およそ1時間後、彼女はまだ窓のところにいた。私は、研究者であることを横に置き、赤十字社のボランティアに彼女を助けるように頼んだ。通訳の助けを得て、彼女が2人の子どもと離れ離れになり、その1人はまだ母乳が必要な子どもだと分かった。通訳とボランティアは、アーメドという名前と家族の名前を叫んで、客車から客車を回った。そして、ロックされた客車に父親と幼い兄弟が閉じ込められていることが分かった。通訳とボランティアは、客車の鍵を外して別の客車で叫ぶ若い女といっしょにするように警察官に頼んだ。しかし、それは無駄だった。結局、赤十字社のボランティアは、自分でことを解決しようと、窓越しに父親から2人の赤ん坊を受け取り、窓越しに母親に渡した。[筆者の調査日誌より]

この話から、人々が、難民が人道上の問題である以上に安全保障上の脅威であると認識していることが分かる。難民を統制する措置や手順のすべてに、このような認識が内在し、そこには、非人間的な官僚制の論理が息づいていた。すべてが、能率原則に則って行われた。国内を「輸送」するスピードや回廊を管理する厳格さがその尺度になった。そしてそれが、安全保障のために必要なこととされた。人道主義や思いやり、他者への共感、規則と命令の次であった。難民は、潜在的に危険な人々であり、スロベニア国民に苦難を強いる脅威となりかねない。このような難民像が描かれた。政府当局は、難民を厳しく監視し、移動させず、地元住民からもその地域からも孤立させた。難民がどこかの地域を通過する時は、機動隊がつき添い、バスで護送され、(少なくとも)出発時と到着時は、緊急ライトが点滅する警察車両に乗せられた。数ヵ月の間、これが、スロベニアの街路やハイウェイで、日々見られた光景であった。

難民を安全保障の問題とみなすもう一つの次元の問題があった。それは、難民が公衆衛生の脅威になりかねないという信念であった。国立公衆衛生研究所は、A型肝炎やチフス、インフルエンザ・ウイルス、皮膚疾患の症例に関する外国の報告をもとに、ニュースや短信で警告を発した [National

Institute of Public Health, 2015]。公衆衛生関係の人々やボランティアは、呼吸保護マスクやゴム手袋を着用しなければならなかった。人の顔を見るだけですぐに難民とそうでない者の違いが分かった。だれもがつねに他の人と接触していたし、汽車やバス、テントは混み合っていたが、調査の期間中、難民でこの種のマスクを着用していたのは、筆者が見るかぎり一人だけであった。居合わせた人々（警察官や兵士、ボランティア）は、筆者に、到着した人々が「われわれ」に病気を伝染させる危険があると、度たび語った。このような懸念が、現場に広がり、難民を脅威とみる認識をいっそう強めた。かれらには、難民は、犯罪者やテロリスト、文化の侵略者ではないとしても、健康を脅かす人々で「なければならなかった」。

移民管理において、難民を安全保障に関わる問題とみる認識と、軍事的措置が必要であるという認識は、完全に一つのものであった。難民は、正当な根拠なく抑圧的な境遇に置かれたが、それに異議を唱える者は、ほとんどいなかった。筆者が話した人々も、たいてい、武装兵士を投入して、厳格に取り締まることに同意していた。かれらは、次のように説明した（作り話さえ捏造され、至る所で話された）。「難民の母国では、警察が腐敗している。警察官は賄賂もOKである。しかし武装兵士は違う。兵士は冷酷な人間として、畏敬の目で見られている。兵士は、どんな過激な手段でも使える、そのため人が死んでも構わない。そんな権力をもっている」。難民には、実際に武装兵士の脅威を逃れてきた人がいたが、人々は、その脅威を難民の脅威に重ね、難民が武装兵士も同然であるかのような言い方を、不快とも思わず、臆面もなく繰り返した。そして、移民管理は安全保障の問題であり、軍事的な対応も仕方ないという考えが広まった。加えてそれは、「われわれ」と「やつら」が厳格に区分されている証であった。難民は、ほとんど、平等な人間と見なされず、正確に言えば、「われわれ」と同じように扱われべき人々と思われていなかった。それは、人々が難民のことを筆者に話す時、「難民になるというとなんでもない決断」を批判する口ぶりからも明らかであった。平易でもっともな説明をする人もいたが（たとえば、どうしてかれらはテントの外の暑い所で寝たのだろうか。「それは、次の集団がいつオーストリアに向けて出発するか分からないので、ゲートのすぐ横で待ちたかったからだ」。どうして移動式ベッドを一カ所にまとめて置いたのだろうか。「それは、家族が離れ離れにならないように、いっしょにいたかったからだ」）、全体としてそうであった。

統制する者・される者という2つの集団の間には、特有の権力関係が明確にみられた。移民管理において、丹念に工夫された選別の方法、ポスト一望

監視的な(監視塔からすべてが見渡せる／訳注)抑止の方法が、役に立たなくなつた。こう考えて当局は、「古きよき」フーコー流の規律権力に訴えるようになった。それは、あからさまな暴力に頼るものではなかつた。——(兵士や警察官の)少数人数により、ジンバルド*²のカウボーイ風の警備が行われた。それは、見るからに「中立的で」「公平で」「合理的で」「唯一可能な」手順と方法であつた。それは、難民に規律を課し、自己規律、従順さと服従を求めるものであつた。次の一節は、規律権力の方法が取られた明白な証である。それは、難民が、2015年11月初めにソルベニアとオーストリアの国境を横断する時、シェンティリとシュピールフェルドの難民収容キャンプで、かれらを統制するために取られた方法であつた。

寒い日で、気温は5度くらいだつた。収容センターは混雑していた。構内は、機動隊や兵士が監視していた。その大部分は、防寒用帽子、呼吸保護マスク、そしてもちろん通常の装備(装甲、ヘルメット、警棒、兵器)を着用していた。難民は、フェンスで囲われ、警備された一画に留め置かれた。テントにはヒーターがあつた。しかし難民には、いつその場を出ることができるのか知らされなかつた。ゲートは、まったく予告なしに開かれた(オーストリア側で国境横断が許される様子が見えた時に開かれた)。そのため、多くの人が、屋外のセンターの出口で待つた。かれらは、そこから「無人地帯」と呼ばれた場所まで歩いた。私がかつたその区域に入った時、スロベニアの兵士に、かれらはゲートの向こうに入れません、あなた一人で入りなさいと警告された。私は、反対側からフェンス越しの様子を目視した(その場所は、次に行った時は白いシートで覆われていた。視界が遮られたので、ゲートの外を見るには高い所に登る必要があつた)。難民は、そこに何時間も「閉じ込められ」ていた。そのため、人々が、とくに子どもが暖を取るために、木材、紙、プラスチックが燃やされた。「無人地帯」の先には、30人のオーストリア兵がサイドガンで武装し、その場を統制していた。かれらは、どうにか人々を規制し、人々が一斉に詰め寄せるのを防いでいた。何百人もの人々が、泥まみれの瓦礫の地面に座つたり、しゃがんだりして、ゲートの通過が一人ずつ許されるまで待たなければならなかつた。それは、年寄り、若者、女性、子どもも同じであつた。オーストリア兵が、人々の前に立って、たえず英語で「座りなさい、座りなさい」と叫んでいた。その他の必要な説明は、バイリンガルのオーストリア兵が一人いて、アラビア語で行つた。彼は、ゲートの監視役もして、おとなしく、すでに十

分に待った人々に、立ってオーストリア側へ行くよう指示した。その兵は、相手を直接指さすか、肩にタッチして、進むのを許した。指示に従わない人は、罰を受けた。立って人を押し除けて進もうとする人は、列の脇に除かれ、座るように言われ、次の集団を待たなければならなかった。[筆者の調査日誌より]

難民の移住は、人権保障の問題ではなく安全保障の問題とされた。その象徴的な出来事は、クロアチアとの国境線にレーザーを通した有刺鉄線が張られたことであった。この悪評高い設備は、難民は危険で脅威だというメッセージの発信源になった。それは、「われわれ」と「やつら」を暴力的に引き裂いた。望ましくない、危険な連中がやって来る。どんな手を使ってでもわが身を守ら「なければならぬ」。そのようなメッセージが、世間に喧伝された。他方で、鉄線の光景は、あなたたちは好かれていません。「われわれ」はあなたたち一人残らず(レーザー鉄線は人を選ばない)に脅威に感じているのです。このようなメッセージが、静かに、しかししっかり難民自身に伝えられた。さらにこのフェンスは、EU加盟国の国境に立てられた。それは、ヨーロッパの政体を分断し、協力・統合・友好ではなく分断・敵意の論理を、人々の心に植えつけた。そのため、モラル・パニックが生じ、「われわれ」と「やつら」の関係は、殺伐としたものになった。

V 民衆の分裂——難民の援助からモラル・パニックと憎悪の拡散へ

当局は、難民問題を政治的事件に仕立て、あらゆる抑圧的な措置を取った。そこから、人々の間にモラル・パニックが起きた。当局に同調するメディアの論調や電子メディアで流れる声が、パニックを煽った。政治家や評論家には、難民をテロリズムと結びつける者もいた。また、文化が乗っ取られ、ヨーロッパがイスラム化するとばかりに恐怖を煽る者もいた。それとは違う言い方をする者もいた。しかしその人々も、なすことは同じであった。結局は、難民を安全保障の問題とする支配的な言説が、ますます明確になった。マスメディアは、その言葉、言い回し、定型的表現を使って難民の報道をした(「スロベニアに飛び散る難民の川の水」「移民クライシス」「スロベニアは好ましからざる難民のポケットになれる」など)。難民のビデオが、たえず流された。これらすべてに、視聴者は、恐怖を抱くしかなかった。兵士と機動隊、流入する人間の群れ、クロアチアとの国境の有刺鉄線。これらが、こぞって緊急事態の様相を醸し、人々は、難民という脅威に直面していると確信した。政治的反対派も、抑圧的な制度をつくる、国境にフェンスを設けるなどの施

策に、疑問を呈しなかった。1つの左翼政党(ドゥルゼナレヴィカ)を除いて、すべての連立政党が、難民問題のポピュリズム的な解決を競うレースに加わった。そして、難民から最低750ユーロの金銭や財貨を没収する案を提案したり [National Assembly, 2016a]、ソルベニア民族防衛団 (Slovenian National Guard) を設立したりした [National Assembly, 2016a]。政治的な議論や政策決定も、大きく右傾化した。その象徴的なものが、2016年1月22日に行われたスロベニア政府とハンガリー政府の共同閣議であった。そこで、ヴィクター・オーバン (Victor Orban) *3の強硬な「移住問題の解決」路線を支持するメッセージが発せられた。

このような行動と政策により、スロベニア社会のあちこちでモラル・パニックが起り、難民への敵意が煽られた。それは、未知の異質な人々への恐怖などというものではなかった。いくつかの集団 (右翼の人々／訳注)の間では、憎悪と狂信的感情が渦巻いた。一般世間や電子メディアの表現は、法的に規制されず、過激なヘイト・スピーチそのものであった。それは、かつてのような匿名のものではなかった。人々は、ニックネームを用いて本名を隠すのではなく、フルネームと特定可能なソーシャル・メディアのプロフィールを用いて、難民に警戒せよ、やつらを殺せ、撃てなどと囁き立て、果てはナチスドイツのやり方、アウシュビッツ、ヒトラーさえ称賛する始末であった。これらの悪意に満ちた言動は、公的には規制されず、訴追もされなかった。それゆえ、活動家たちは、恥ずべきキャンペーンを行ったり、ヘイト・スピーチに批判的な作家の名をウェブページのツロベニア Zlovenia (悪魔のヴェニア) にさらしたり、リュブリャナ (スロベニアの首都／訳注) の街路のあちこちに手作りの看板を置いたりした。地方では、臨時難民収容センターの開設に反対するデモが起きた。デモ参加者は、スロベニア風のスローガンや旗に合わせて、ドイツのペギタの難民反対派と同じスローガンと旗を用いた (「レイプ難民 (Rapefugees) は歓迎しない」、「イスラム教徒は歓迎しない」)。高校教師でさえ、高校の寮に保護者を伴わない子どもが寄宿することに反対して、嘆願書を提出した。さらに2016年1月には、リュブリャナのモスク建設現場で、夜間に、多くの豚の頭と血入りの瓶が投棄される人種差別事件が発生した [Islamska skupnost v Sloveniji, 2016]。他方で、難民に対する不寛容が高まり、抑圧的な措置が取られるにつれ、(良識的な／訳注) 市民社会のあちこちで、これらを批判する応答がなされた。そこでは、難民を擁護する立場が表明された。移民を安全保障の問題とみなす考え、とくに有刺鉄線のフェンスに抗議する動きが起り、看板などが設置された。このような民衆の分裂は、首都で組織された抗議活動に明確に現れた。数回

にわたり、同じ日に数メートル離れた場所で反対派と支持派が抗議活動を行った(たとえば2015年9月25日、2016年2月27日)。リュブリャナの落書きも、同様であった。落書きは、一方で「ツェラルはオーパンだ」(スロベニア首相のツェラルはハンガリー首相のオーパンと同じ極右主義者だ/訳注)、「軍事化を止めろ」、「難民歓迎」、他方で「イスラム化はノーだ」、「ストップ・イスラム」、「移民はご免だ」という具合であった。

VI 結論

移民統制の方法は、個人や特定集団の監視から人口の管理へ変容した。そこで、フーコー⁶²⁾の理論が想起される。フーコーは、統制にはさまざまな形態があり、服従の仕方もさまざまであると考えた。そして、次のように論じた。権力をもつ者は、まず、規律により個人の身体と精神を訓練する。その後、権力は、抽象的で不可視の統制・規制、すなわち生政治へ移行する。アース⁶³⁾は、さらにこの概念を洗練して、アガンベンの剥き出しの生の政治(zoopolitics)(人間の尊厳と保護を奪って、人間を社会から追放する政治/訳注)の視点に準拠して、剥き出しの生の政治と生政治を区別した。すなわち、剥き出しの生の政治は、社会的身体を規律化するのではなく、それを抹消する。これに対して、生政治は、社会的身体を選別し、その内部から規律化する。換言すれば、剥き出しの生の政治は、国境を超える移住・国内の移住のいずれであろうと、それを「阻止」・制御する。これに対して、生政治は、国内の特定地域への移住に限って、阻止・制御する、すなわち、特定地域の人々に限って、権力を行使する。しかしこの論点は、さらに正確に理解する必要がある。西欧の国々の移民管理は、生政治と、それと不可分の剥き出しの生の政治を生んだ。とはいえ、いずれの移民管理においても、規律が大きく機能している。私たちの身体は、国境の横断や空港などで、多くの規律や統制(身体訓育)により訓練され、それに服するように訓育されている。思い起こしてみよう。ボディ・スキャナーの前でベルトを外し、靴を脱いで、両手を上げる時、あるいは、脇へ連れ出されてハンドバックを細かく調べられる時、私たちはいつも、なんと無力なのだろうと感じている。これは極端な例である。しかし、世界を旅する権限をもつ旅行者(「観光客」)でさえ、日常的に規律権力にさらされている。「不運な放浪者」は、はるかに悪質な規律権力の洗礼を受けている。かれらは、一片の配慮もなく、能率だけを追求する、官僚的で冷酷な方法で扱われている。そのことで、どんなことが起こり、どんな結果になろうと一顧だにされない。それはまさに、異常なまでに人間を疎外する規律である。そのような規律が、(構築された)安全保障

の脅威という厳しい「闘い」を教え込むために、用いられてきた。現代ヨーロッパでは、犯罪の厳格な取組みが、難民の厳格な取組みに変容している。

バルカン半島への難民の移動は、政治やメディアにおいて、安全保障の問題、軍事の問題とされた。それは、バウマン⁶⁴⁾が難民問題の道徳的異化と呼ぶものを想起させる。個人や広範な大衆、政府機関、国家、国際的・一国的な組織などの言動が、どのような道徳的な意味をもつかなど、どうでもいい。目的は、流入する難民から市民を保護することを安全保障の問題として喧伝することであり、統治を正当化することであり、そのために不法な手段を用いても構わないとすることである。このもっとも明白かつ顕著な例として、国境の軍事化がある。軍事化は、官僚的で不可視な統制を可視化するものであり、今日、政策決定者が、西欧社会を守る最後の手段として頻用しているものである。壁や有刺鉄線のフェンス、武装警備員、もっとも弱い立場にある人々（たとえば難民）さえ立ち入ることを禁じる国境の軍事化、これらがどんどん増えている。それはまさに、壁のこちら側にいる「われわれ」の価値と精神を模写したものである。それはまた、政治的に公的予算をまず何に支出すべきかを教えている。スロベニア政府は、緊縮財政をしている時でさえ、難民移住の統制に過激で過剰な施策を取り、安全保障の問題として公費を支出した。しかし、それが問題視されることはなかった。2015年11月に、警察官の労働組合 (Police Trade Unions) は、スロベニア政府が賃上げの合意を反故にしたとしてストライキを行ったが、それは皮肉な話である。

他国との国境線にフェンスを立てる施策は、権威主義的な社会主義・共産主義の時代のスロベニアにおいてさえ取られたことがなかった。これは、重要なポイントである。有刺鉄線が本格的に張られた最後といえば、第二次世界大戦の時、イタリアのファシスト政権がスロベニアを占領して、リュブリャナを有刺鉄線で囲った時である。さらに、ユーゴスラヴィアが民主化された時、スロベニアは、その強い影響下にあったが、非軍事化と密接に関わって、国境の軍事的な統制が解除された。国境の非軍事化は、体制移行のもっとも重要な要請であり、即座に実施された。わずかに25年後に、私たちは、国境で、難民センターはもとより、私たち自身が、レーザー鉄線のフェンスで囲われる様子を見ている。難民は危険な人々ではまったくない。その大多数は、警察官や兵士が命じる規則や命令におとなしく従っている。それゆえ、このように、ところ構わず行動の自由を制限する施策は、正当化できるものではない。難民の間に、事件はほとんど起きていない⁶⁵⁾。事件は起きたが（私が現場で見たかぎり）、その抗議や暴力は、状況が混乱して、人々の意思疎通が叶わなかったために、起きたものである。人々は、国境が閉鎖されるこ

とを恐れていた。2016年3月に「バルカン・ルート」が閉鎖された。国境が閉鎖されることへの難民の不安には、根拠があった。加えて、汽車の客車を外からロックするという無思慮な措置が取られたが、そのようなやり方は、単純に間違っており、どう説明しても擁護できるものではない。ナチス政権が、無実の人々を貨車に閉じ込め、汽車で「輸送」した歴史的記憶が、容易に想起される。これらのことを考える時、私たちは、レイマン⁶⁶のぞら恐ろしい一節を、肝に銘じなければならない。

司法制度(そして国家の安全保障制度)に、もっとも危険なことから社会を守るために、もっとも過激な武器を使うことが許されているとしよう。その時、人々は、その逆も真なりと思うだろう。すなわち、社会のもっとも過激な武器をもつ司法制度には、社会にもっとも大きな危険をもたらす人々がいなければならない、ということである。

以上の議論から、重要な問いが出てくる。私たちは、(西欧人)の難民に対しても同じように接するのだろうか。そうでないとすれば、私たちは、明らかに(新)人種主義に与していることになる。パウマン⁶⁷が言うように、政策に始まったものが、イデオロギーになった。2015年～2016年に見た状況や、移住をよぎなくされた難民に対するEUの仕打ちは、ハドソン(2015年)の主張「普遍的な倫理・モラルは、強大国が今日取る移民政策においてほとんど無視され、否定されている」が真なることを立証している。難民は、「文明的な」ヨーロッパ人により遺棄され、なにもない土地、広大な水域に放置されている。

本稿は、2015年～2016年にバルカン・ルートを通過した難民の様子について分析した。そこから、EUと加盟国が正常な権力を喪失し、結局、暴力に頼るしかなかったことが示された。政策は、具体的に国ごとに異なったが、共通していたのは暴力である。難民が、ヨーロッパの解放勢力とみられることもあった。かれらは、ヨーロッパの強大国やEUの移民政策、シェンゲン協定やダブリン協定に抗う人々とみられた。しかし、かれらが、強大国の生政治ゲームの対象でしかなかったことが、すぐに明らかになった。かれらに、マルクスが描いた、資本主義の労働市場に組み込まれたイングランドとアイルランドの労働者の姿を重ねることができるだろう。今日の難民の「自由」は、かつてのイングランドとアイルランドの労働者より制約されている。かれらが服従の状態にあることは、メディアや政治、また世間における難民イメージから明らかである。EUとトルコの共同行動計画(Joint Action Plan)

[European Commission, 2015] の条項に、その象徴的な表現がみられる。その計画によれば、EUとトルコの間にはシリア難民の再居住地をつくとされる。それはまさに、移民統制を他国（この場合はトルコ）へ押しつけるやり方である（後に難民はそこから追放された）。それにより、EUは、スペインのカナリア諸島⁶⁸⁾への難民流入を阻止することができた。この点に関わって、アーレント⁶⁹⁾の言葉が想起される。彼女は、次のように書いた。暴力は、権力（への支持や正当性）が脅かされる時に現れる。その時、暴力は、権力を抹殺することさえできる。暴力の行使による勝利は高くつく。その代価は、普通は、最初に暴力の行使を支持した人々が支払う。ここに皮肉がある。間違ったイデオロギーに染まったヨーロッパの人々は、人間の連帯、人道的で開明的な社会を実現するために、また同時に自分自身を守るために、難民への暴力を拒否しなければならない、ということに気づいていない。

スロベニア当局が2015年～2016年に難民移住について取った政策、またその後を取った政策（たとえば2017年の悪名高い外国人法の改定）から、次のことが知られる。スロベニアは、EUの中核諸国の半周縁国としての難民警備の役割を踏み超えて、「ダーティ・ワーク」に手を染めようとしている。統制と監視、排除と抑圧が、一時の明白な犠牲者（現在は難民と他の移民）に止まることは、けっしてない。それらは、移住過程の全体、さらに社会全体に拡大される。結局、私たちは、安全な状況が脅かされていると思い込んで、被害妄想に満ちた社会をつくり、不信にかられ、自由のためにはだれかを犠牲に「しなければならない」と信じるようになる。2017年にスロベニアの警察法が、警察官にいっそう強権的な統制権力を与えるように改訂されたが（移民のみを対象としたものではないが）、それなど、そのような社会になっていく、否定しがたい証である。1つの集団に過激な措置が取られ、それが容認されると、次の質問が飛び出す。「次はだれか」。

原注

- 1) Dauvergne, C., 2008, *Making People Illegal: What Globalization Means for Migration and Law*, Cambridge, Cambridge University Press.
- 2) Wallerstein, I. M., 2006, *World-Systems Analysis: An Introduction*, Durham, Duke University Press.
- 3) Aas, K. F., 2013, "The Ordered and the Bordered Society: Migration Control, Citizenship, and the Northern Penal State", Aas, K. F. and Bosworth, M. eds., *The Borders of Punishment: Migration, Citizenship, and Social Exclusion*, Oxford, Oxford University Press, 21-39.

- 4) Albahari, M., 2014, *Crime of peace: Mediterranean migrations at the world's deadliest border*, Philadelphia, University of Pennsylvania, 2015; R. Andersson, *Illegality, Inc.: Clandestine migration and the business of bordering Europe*, Oakland, University of California Press.
- 5) Bauman, Z., 2005, *Work, consumerism and the new poor.*, Maidenhead, Open University Press.
- 6) Balibar, E., 2004, *We, the People of Europe? Reflections on Transnational Citizenship*, Princeton, Princeton University Press.
- 7) Aas, K. F., 2007, *Globalization and crime*, London, Sage, 130-149.を参照せよ。
- 8) Harvey, D., 2007, *A brief history of neoliberalism.*, Oxford, Oxford University Press, 3.
- 9) Balibar, 2000, *Supra Note 6*; U. Beck, *What is Globalization?* Cambridge, Polity Press; Bauman, Z., 1998, *Globalization. The Human Consequences*, Cambridge, Polity Press; Bauman, 2016, *Supra Note 5*; Z. Bauman, *Strangers at Our Door*, Cambridge, Polity Press; Harvey, *supra note 8*.
- 10) Wacquant, L., 2009, *Punishing the poor: The Neoliberal Government of Social Insecurity*, Durham, Duke University Press, 5.
- 11) Bauman, 2016, *Supra Note 9*, 4.
- 12) Cheliotis, L. K., 2015, "The Limits of Inclusion: Globalization, Neoliberal Capitalism and State Policies of Border Control" in L. Weber (ed.), *Rethinking Border Control for a Globalising World: Rethinking Globalizations*, London, Routledge, 33-43.
- 13) Dauvergne, 2008, *Supra Note 1*.
- 14) Wacquant, L., 2009, *Supra note 10*, *Punishing the Poor: The Neoliberal Government of Social Insecurity*. Durham, Duke University Press, 2009a, 6.
- 15) Aas, K. F., 2011, "Crimmigrant' Bodies and Bona Fide Travelers: Surveillance, Citizenship and Global Governance" , *Theoretical Criminology*, Vol. 15, No. 3, 331-346, 334.
- 16) Kanduč, Z., 2007, *Kriminološki pogled na svobodo in varnost v. postmoderni družbi*. *Revija za kriminalistiko in kriminologijo*, Vol. 58, No. 3, 231-245.
- 17) Michalowski, R., 2015, "Security and Peace in the US-Mexico Borderlands" in L. Weber (ed.), *Rethinking border control for a globalizing world: Rethinking globalizations*, London, Routledge, 44-63.
- 18) Bauman, 2016, *supra note 9*, 18.
- 19) Rahola, F., 2011, "The Detention Machine" , in P. Salvatore (ed.), *Racial Criminalization of Migrants in 21st Century*, Burlington, Ashgate, 95-106.
- 20) Garland, D., 2009, *The culture of control: Crime and social order in contemporary society* , Oxford, Oxford University Press, 2001; L. Wacquant, *Prisons of poverty*, Minneapolis,

University of Minnesota.を参照。

- 21) Aas, supra note 3.
- 22) 上掲書
- 23) Stumpf, J., 2006, “The crimmigration crisis:Immigrants, crime, and sovereign power” , American University Law Review, Vol. 56, No. 2, 367-419.
- 24) 次を見られたい。Bosworth, M. and M. Guild, 2008, “Governing through Migration Control:Security and Citizenship in Britain” , British Journal of Criminology, Vol. 48, No. 6, 703-719; E. Kaufman, 2013, “Hubs and Spokes:The Transformation of the British Prisons” , in K. F. Aas and M. Bosworth (eds.), The Borders of Punishment:Migration, Citizenship, and Social Exclusion, Oxford, Oxford University Press, 166-182.
- 25) Melossi, D., 2015, Crime, Punishment and Migration, London, Sage, xi.
- 26) たとえば Žižek, S., 2016, Against the Double Blackmail:Refugees, Terror and Other Troubles with the Neighbors, London, Allen Lane.
- 27) Huysmans, J., 2006, The Politics of Insecurity:Fear, Migration and Asylum in the EU, London:, Routledge.
- 28) Andersson, Supra Note 4, 68.
- 29) Bauman, Z., 2006, Liquid modernity, Cambridge, Polity Press.
- 30) R. Cohen, Migration and its enemies:Global capital, migrant labour and the nation-state, Vurlington, Ashgate, 2006, p. 149.
- 31) Bade, K., 2005, Migration in European History, Malden, Blackwell Publishing.を参照。
- 32) Weber, L. and B. Bowling, 2008, “Valiant Beggars and Global Vagabonds:Select, Eject, Immobilize” , Theoretical Criminology, Vol. 12, No. 3, 355-375, 361.
- 33) 次を見られたい。Albahari, 2014, Supra Note 4; A. Bučar Ručman, Migracije in Kriminaliteta:Pogled čez meje stereotipov in predsodkov. Ljubljana:Založba ZRC SAZU; A. De Giorgi, 2010, “Immigration Control, Post-fordism, and Less Eligibility:A Materialist Critique of the Criminalization of Immigration across Europe” , Punishment & Society, Vol. 12, No. 2, 147-167; L. K. Cheliotis, 2015, “The limits of Inclusion:Globalization, Neoliberal Capitalism and State Policies of Border Control” , in L. Weber (ed.), Rethinking Border Control for a Globalising World:Rethinking Globalizations, London, Routledge, 33-43.
- 34) Weber & Bowling, Supra Note 32, 360.
- 35) ハンガリーは、EU加盟国であるが、2015年に難民が流入し、国を通過するのを問答無用と阻止し、国際移住・移民の統制と選別に関するEUの原則を反故にした。同時に、難民は、国家の安全を脅かす人々であり、テロリストであり、ヨーロッパのキリスト教文化を侵害する危険な人々であるとされた。難民の移動が犯罪とみなされ、処罰されることもあった。果ては、難民をフェンス内に閉じ込め、その周りを軍がパトロールしたりした。他方で、ハン

ガリー政府は、「ハンガリー投資移住計画Hungarian Investment Immigration Project」[Hungarian Government, 2017]を進めている。この計画へ応募する人の文書を作成する業務を行う認可企業は、「世界でもっとも早く、もっとも簡単に永住許可が取れます」「成人だけでなく、子どもも親も永住許可が取れます」と宣伝している。ハンガリー政府の特別債権に一人「たった」30万ユーロ、行政手続きに66万ユーロ（企業により異なる）、一回きりの還元なしの場合は、「たった」18万ユーロ払うだけでよしとある。そして説明の最後に、「これはヨーロッパでもっとも安いオファーです」「シェンゲン協定を結ぶ国ならビザも国境チェックもなしに自由に旅行できます」と謳っている (Residency Bond program, n.d.)。

- 36) De Giorgi, 2010supra note 33, 151.
- 37) Bauman, 1998, supra note 9.
- 38) Aas, supra note 15.
- 39) Aas 2007, supra note 7, 33.
- 40) S. D. Watson, 2009, *The securitization of humanitarian migration:Digging moats and sinking boats*, New York, Routledge.
- 41) Cohen, Supra Note 30.
- 42) Bauman, 2016, Supra Note 9.
- 43) Bosworth & Guild, supra note 24.を参照。
- 44) Bauman, 2016, supra note 9, 86.
- 45) Agamben, G., 1998, *Homo sacer:Sovereign power and bare life*, Stanford, Stanford University Press.
- 46) Bundeskriminalamt, 2016, *Kriminalitat im Kontext von Zuwanderung:Kernaussagen*. Retrieved from https://www.bka.de/SharedDocs/Downloads/DE/Publikationen/JahresberichteUndLagebilder/KriminalitaetImKontextVonZuwanderung/kernaussagenZuKriminalitaetImKontextVonZuwanderung.pdf?__blob=publicationFile&v=16; A. Kreuzer, “Fluchtlinge und Kriminalitat:Angste - Vorurteile - Fakten” , *Kriminalistik*, Vol. 7, 2016, 445-450, 446.
- 47) Goffman, E., 1961, *Asylums:Essays on the social situation of mental patients and other inmates*, London, Penguin Books.
- 48) Bigo, D., 2006, “Security, exception, ban and surveillance” , in D. Lyon (ed.), *Theorizing surveillance:The panopticon and beyond*, Cullompton, Willan Publishing, 46-68.
- 49) M. Agier, 2011, *Managing the Undesirables:Refugee Camps and Humanitarian Government*, Cambridge, Polity Pres, 4.
- 50) Bauman, supra note 5.
- 51) Castles, S. and M. J. Miller, 2009, *The Age of Migration:International Population Movements in the Modern World*, New York, Palgrave Macmillan, 56.

- 52) この記述は、2015年10月～12月に、ソルベニアのいくつかの施設で行った難民との雑談や面接によるデータに基づく(筆者のフィールドノートの記録から)。難民たちは、海上・陸上の旅について語ってくれた。かれらは、トルコからギリシャへボートで渡るだけで1,000から1,200ユーロ(子どもはその半分)を支払った。さらにフェリーや汽車、タクシー、警備員や役人への賄賂、食べ物、水などに数百ユーロを支払った。シリアからの行程全体で数千ユーロを使った。他方で、イラクやアフガニスタンの難民は、その上さらに1,000から2,000ユーロを使った。
- 53) UNHCR. 2017, Europe:Syrian Asylum Applications, Retrieved from <http://data.unhcr.org/syrianrefugees/asylum.php>
- 54) Battjes, H., E. Brouwer, L. Slingenbergh, and T. Spijkerboer, 2016, The Crisis of European Refugee Law:Lessons from Lake Success, Retrieved from <http://christenjuristen.nl/wp-content/uploads/2016/05/H.-Battjes-E.-Brouwer-L.-Slingenbergh-T.-Spijkerboer-The-Crisis-of-European-Refugee-Law.pdf>
- 55) Massey, D. S., J. Arango, G. Hugo, A. Kouaouci, A. Pellegrino, and E. J. Taylor, 1993, "Theories of international migration:A review and appraisal" , Population and Development Review, Vol. 19, 431-466.
- 56) Government of the Republic of Slovenia, 2016, Informacija o Veljavni Evropski Zakonodaji, Bilateralnih Sporazumih in Nacionalni Zakonodaji, ki Določa Obravnavo Tujcev, ki na ozemlje RS vstopijo nezakonito ter njenem izvajanju, Retrieved from www.vlada.si/fileadmin/dokumenti/si/sklepi/seje_vlade_gradiva/dublin_6.69mnz.pdf; Battjes et al., supra note 54.
- 57) According to Slovenian government 2016 and Slovenian Police, Archive of press releases in connection with current migration flows, 2016. Retrieved from www.policija.si/eng/index.php/component/content/article/6-bordermattersandforeigners-/1917-archive-of-press-releases-in-connection-with-current-migration-flows;
Slovenia was a transit country for the vast majority of people (almost all who entered also exited the country in a couple of days).
- 58) Odmevi [Video file] . 2015, November 23. Retrieved from <http://4d.rtvsl.si/arhiv/odmevi/174373053>
- 59) この情報は、スロベニア政府、および最後の事件のあとの数日に現場で話した人々(赤十字社のボランティアやNGO代表、地元の人々)によるものである。
- 60) スロベニア共和国政府の公式統計 [2016]によれば、2015年10月17日～2016年1月25日の間にスロベニアを通過した人々の内、45パーセントはシリア人、30パーセントはアフガニスタン人、17パーセントはイラク人、1パーセントはパキスタン人、7パーセントはその他の国の人々であった。全体の48.7パーセントは成人男性で、51.3パーセントは、女性と子どもで

あった。

- 61) 2004年にすでに、防衛法 (Defence Act) で、軍と警察は協同して国境警備を行うとなっていた。にもかかわらず、修正条項が出され、迅速な審議により通過した。政府と反対派は、政治的に合意していた。——小さな左翼政党 (Združena Levica) だけが、反対票を投じた。しかし、国民投票を管掌する憲法裁判所がこれに納得しなかったため、修正条項は、国会を通過して2カ月後によく効力をもった。そのため現場では、たいてい、兵士は、2004年の防衛法に従って手続きを取った。
- 62) Foucault, 2003, “Society Must Be Defended”: Lectures at the College De France, 1975-76, New York, Picador.
- 63) Aas 2011, *supra* note 15, pp. 339-340.
- 64) Bauman, 2016, *Supra* Note 9.
- 65) 2015年10月～12月の間、2件の犯罪が報告されただけであった(難民同士のナイフを使った喧嘩)。あとは、2つの集団の命令違反があっただけで、警察官に対する暴行はなかった。情報は次による。Ministry of the Interior, 2016, Poročilo o opravljenih aktivnostih ob prihodu migrantov na ozemlje republike slovenije v času od 15.10.2015 do 8.12.2015 s predlogi sklepeov. Retrieved from www.vlada.si/fileadmin/dokumenti/si/sklepi/seje_vlade_gradiva/VRS-migrant2-3_20_68.pdf
- 66) Reiman, J., 2004, *The Rich Get Richer and the Poor Get Prison: Ideology, Class, and Criminal Justice*, 7th edn., Boston, Allyn & Bacon, 61.
- 67) Bauman, Z., 2002, *Modernity and the Holocaust*, Cambridge, Polity Press.
- 68) 次を見られたい。Andersson, *Supra* Note 4.
- 69) Arendt, H., 1970, *On violence*, San Diego, Harcourt Brace Jovanovich.

訳注

- *1 1ユーロ ≒ 131円 (2018.11.13現在)
- *2 刑務所で行われた実験で、普通の人が特別な肩書きや地位を与えられると、その役割に合わせて行動してしまう人間の心理が立証された。
- *3 ハンガリー首相のオーバンは、極右政治家で、EUの移民に寛容な政策を批判し、断乎として移民の排除を進めるとした。

文献

- Aas, K. F., *Globalization and Crime*, London, Sage, 2007.
- Aas, K. F., “Crimigrant¹ bodies and bona fide travelers: Surveillance, citizenship and global governance”, *Theoretical Criminology*, Vol. 15, No. 3, 2011, pp. 331-346.
- Aas, K. F., “The ordered and the bordered society: Migration control, citizenship,

- and the Northern Penal State” , in K. F. Aas, & M. Bosworth (eds.), *The borders of punishment:Migration, citizenship, and social exclusion*, Oxford, Oxford University press, 2013, pp. 21-39.
- Agamben, G., *Homo Sacer:Sovereign power and bare life*, Stanford, Stanford University Press, 1998.
- Agier, M., *Managing the undesirables:Refugee camps and Humanitarian Government*. Cambridge, Polity Press, 2011.
- Albahari, M., *Crime of peace:Mediterranean migrations at the world’ s deadliest border*. Philadelphia, University of Pennsylvania, 2015.
- Amendments to the Defence Act of 2004. Official Gazette of the Republic of Slovenia, 95/15, 2015.
- Andersson, R., *Illegality, Inc.:Clandestine Migration and the Business of Bordering Europe*. Oakland, University of California Press, 2014.
- Arendt, H., *On Violence*, San Diego, Harcourt Brace Jovanovich, 1970.
- Bade, K., *Migration in European History*, Malden, Blackwell Publishing, 2005.
- Balibar, E., “Racism and nationalism” in E. Balibar & I. Wallerstein (eds.), *Race, nation, class:Ambiguous identities*, London, Verso, 1991, pp. 37-68.
- Balibar, E., *We, the people of Europe? Reflections on transnational citizenship*. Princeton, Princeton University Press, 2004.
- Battjes, H., Brouwer, E., Slingenberg, L., & Spijkerboer, T., *The crisis of European refugee law:Lessons from Lake Success’* , 2016. Retrieved from <http://christenjuristen.nl/wp-content/uploads/2016/05/H.-Battjes-E.-Brouwer-L.-Slingenberg-TSpijkerboer-The-Crisis-of-European-Refugee-Law.pdf>
- Bauman, Z., *Globalization. The human consequences*. Cambridge, Polity Press, 1998.
- Bauman, Z., *Modernity and the holocaust*. Cambridge, Polity Press, 2002.
- Bauman, Z., *Work, consumerism and the new poor*. Maidenhead, Open University Press, 2005.
- Bauman, Z., *Liquid modernity*. Cambridge, Polity Press, 2006.
- Bauman, Z., *Strangers at our door*. Cambridge, Polity Press, 2016.
- Beck, U., *What is globalisation?* Cambridge, Polity Press, 2000.
- Bigo, D., “From foreigners to abnormal aliens:How the faces of the enemy have changed following September the 11th” , in E. Guild, & J. van Selm (eds.), *International Migration and Security. Opportunity and Challenges*, Oxon, Routledge, 2005, pp. 64-81.
- Bigo, D., “Security, exception, ban and surveillance” , in D. Lyon (ed.), *Theorizing surveillance:The panopticon and beyond*, Cullompton, Willan Publishing, 2006, pp. 46-68.
- Bosworth, M., “Can immigration detention centres be legitimate? Understanding confinement in

- a global world” , in K. Franko Aas & M. Bosworth (eds.), *The borders of punishment:Migration, citizenship, and social exclusion*, Oxford, Oxford University Press, 2013, pp. 149-165.
- Bosworth, M., & Guild, M., “Governing through migration control:Security and citizenship in Britain’ , *British Journal of Criminology*, Vol. 48, No. 6, 2008, pp. 703-719.
- Bučar Ručman, A., *Migracije in kriminaliteta:Pogled čez meje stereotipov in predsodkov*. Ljubljana, Založba ZRC SAZU, 2014.
- Bundeskriminalamt, *Kriminalitat im Kontext von Zuwanderung:Kernaussagen*, 2016, Retrieved from https://www.bka.de/SharedDocs/Downloads/DE/Publikationen/JahresberichteUndLagebilder/KriminalitaetImKontextVonZuwanderung/kernaussagenZuKriminalitaetImKontextVonZuwanderung.pdf?__blob=publicationFile&v=16
- Castles, S., & Miller, M. J., *The age of migration:International population movements in the modern world*. New York, Palgrave Macmillan, 2009.
- Cheliotis, L. K., “Behind the veil of philoxenia:The politics of immigration detention in Greece” , *European Journal of Criminology*, Vol. 10, No. 6, 2013, pp. 725-745.
- Cheliotis, L. K., “The limits of inclusion:Globalization, neoliberal capitalism and state policies of border control” , in L. Weber (ed.), *Rethinking border control for a globalizing world:Rethinking globalizations*, London, Routledge, 2015, pp. 33-43.
- Cohen, R., *Migration and its enemies:Global capital, migrant labour and the nation-state*, Burlington, Ashgate, 2006.
- Dauvergne, C., *Making people illegal:What globalization means for migration and law*. Cambridge, Cambridge University Press, 2008.
- Dauvergne, C., “The troublesome intersections of refugee law and criminal law”, in K. F. Aas & M. Bosworth (eds.), *The borders of punishment:Migration, citizenship, and social exclusion*, Oxford, Oxford University Press, 2013, pp. 76-90.
- Defence Act, *Official Gazette of the Republic of Slovenia*, 103/04, 2004.
- De Giorgi, A., “Immigration control, post-fordism, and less eligibility:A materialist critique of the criminalization of immigration across Europe” , *Punishment & Society*, Vol. 12, No. 2, 2010, pp. 147-167.
- European Commission, *EU Turkey Joint Action Plan*, 2015. Retrieved from http://europa.eu/rapid/press-release_MEMO-15-5860_en.htm
- Foucault, M., “Society must be defended” :*Lectures at the college De France, 1975-76*, New York, Picador, 2003.
- Galtung, J., “Cultural violence” , *Journal of Peace Research*, Vol. 27, No. 3, 1990, pp. 291-305.
- Garland, D., *The culture of control:Crime and social order in contemporary society*. Oxford,

Oxford University Press, 2001.

Goffman, E., *Asylums: Essays on the social situation of mental patients and other inmates*, London, Penguin Books, 1961.

Goris, I., Jobard, F., & Lévy, R., *Profiling minorities: A study of stop-and-search practices in Paris*, New York, Open Society Institute, 2009.

Government of the Republic of Slovenia, *Migracije v številkah*, 2016b. Retrieved from www.vlada.si/fileadmin/dokumenti/si/projekti/2015/begunci/160202_migranti.pdf

Government of the Republic of Slovenia, *Informacija o veljavni evropski zakonodaji, bilateralnih sporazumih in nacionalni zakonodaji, ki določa obravnavo tujcev, ki na ozemlje RS vstopijo nezakonito ter njenem izvajanju*, 2016a. Retrieved from

www.vlada.si/fileadmin/dokumenti/si/sklepi/seje_vlade_gradiva/dublin_6.69mnz.pdf

Harvey, D., *A brief history of neoliberalism*, Oxford, Oxford University Press, 2007.

Hudson, B., "Moral communities across the border" , in L. Weber (ed.), *Rethinking border control for a globalizing world: Rethinking globalizations*, London, Routledge, 2015, pp. 116-132.

Hungarian Government, *The Hungarian investment immigration program*, 2017. Retrieved from www.mfa.gov.hu/NR/rdonlyres/1A5BB49E-75C4-429D-A6E0-0D3E753838BC/0/program_overview_EN.pdf

Huysmans, J., *The politics of insecurity: Fear, migration and asylum in the EU*, London, Routledge, 2006.

Islamska skupnost v Sloveniji. *Reporterjevo hujskanje in svinjske glave*, 2016. Retrieved from www.islamska-skupnost.si/novice/2016/01/reporterjevo-hujskanje-in-svinjske-glave/

Kanduč, Z., "Kriminološki pogled na svobodo in varnost v. postmoderni družbi" , *Revija za kriminalistiko in kriminologijo*, Vol. 58, No. 3, 2007, pp. 231-245.

Kaufman, E., "Hubs and spokes: The transformation of the British prisons", in K. Franko Aas & M. Bosworth (eds.), *The borders of punishment: Migration, citizenship, and social exclusion*. Oxford, Oxford University Press, 2013, pp. 166-182.

Kreuzer, A., "Fluchtlinge und Kriminalität: Angste – Vorurteile – Fakten" , *Kriminalistik*, Vol. 7, 2016, pp. 445-450.

Massey, D. S., Arango, J., Hugo, G., Kouaouci, A., Pellegrino, A., & Taylor E. J., "Theories of international migration: A review and appraisal" , *Population and Development Review*, Vol. 19, No. 3, 1993, pp. 431-466.

Melossi, D., *Crime, Punishment and Migration*, London, Sage, 2015.

Michalowski, R., "Security and peace in the US-Mexico Borderlands" in L. Weber (ed.), *Rethinking border control for a globalising world: Rethinking globalizations*, London, Routledge, 2015, pp. 44-63.

Miller, J., Gounev, P., Pap, A. L., Wagman, D., Balogi, A., Bezlov, T., et al. "Racism and police stops: Adapting us and british debates to continental Europe" , *European Journal of Criminology*, Vol. 5, No. 2, 2008, pp. 161-190.

Ministry of the Interior, Poročilo o opravljenih aktivnostih ob prihodu migrantov na ozemlje republike slovenije v času od 15.10.2015 do 8.12.2015 s predlogi sklepov, 2016. Retrieved from www.vlada.si/fileadmin/dokumenti/si/sklepi/seje_vlade_gradiva/VRS-migrant2-3_20_68.pdf

National Assembly, NSi - Poslanska skupina Nove Slovenije - krščanskih demokratov: Amandmaji k Predlogu zakona o mednarodni zaščiti (ZMZ-1), 2016a. Retrieved from <http://imss.dz-rs.si/imis/0af35e9cd0b8260f0656.pdf>

National Assembly, Zahteva za sklic nujne seje odbora za obrambo, 2016b. Retrieved from <http://imss.dz-rs.si/imis/f32f64faf59434187842.pdf>

National Institute of Public Health, Migranti: Za zdaj nalezljive bolezni ne predstavljajo večjega tveganja za naše prebivalce, 2015. Retrieved from www.nijz.si/sl/migranti-za-zdaj-nalezljive-bolezni-ne-predstavljajo-vecjega-tveganja-za-nase-prebivalce

Odmevi [Video file] . 23 November 2015. Retrieved from <http://4d.rtvsl.si/arhiv/odmevi/174373053>

Rahola, F., "The Detention Machine" , in P. Salvatore (ed.), *Racial criminalization of migrants in 21st century*, Burlington, Ashgate, 2011, pp. 95-106.

Reiman, J., *The rich get richer and the poor get prison: Ideology, class, and criminal justice* (7th edn), Boston, Allyn & Bacon, 2004.

Residency Bond program, Residency Bond EU, (n. d.). Retrieved from www.residency-bond.eu/residency-bond-program.html

Slovenian Police, Archive of press releases in connection with current migration flows, 2016. Retrieved from eng/indexr.php/component/content/article/6-bordermattersandforeigners-/1917-archive-of-press-releases-in-connection-with-current-migration-flows

Stumpf, J., *The crimmigration crisis: Immigrants, crime, and sovereign power*, *American University Law Review*, Vol. 56, No. 2, 2006, pp. 367-419.

Stumpf, J., "The process is the punishment in crimmigration law" , in K. Franko Aas & M. Bosworth (eds.), *The borders of punishment: Migration, citizenship, and social exclusion*, Oxford, Oxford University Press, 2013, pp. 58-75.

UNHCR, 2017, *Europe: Syrian Asylum Applications*, 2017. Retrieved from <http://data.unhcr.org/syrianrefugees/asylum.php>

UNHCR, 2017, UNHCR Statistical Yearbook 2016, Geneva.

Van Dijk, T. A., Racism and discourse in Spain and Latin America. Amsterdam, Philadelphia, John Benjamins Publishing, 2005.

Wacquant, L., Punishing the poor: The neoliberal government of social insecurity, Durham, Duke University Press, 2009a.

Wacquant, L., Prisons of poverty, Minneapolis, University of Minnesota, 2009b.

Wallerstein, I. M., World-systems analysis: An introduction, Durham, Duke University Press, 2006.

Watson, S. D., The securitization of humanitarian migration: Digging moats and sinking boats, New York, Routledge, 2009.

Weber, L., & Bowling, B., "Valiant beggars and global vagabonds: Select, eject, immobilize", Theoretical Criminology, Vol. 12, No. 3, 2008, pp. 355-375.

Žižek, S., Against the double blackmail: Refugees, terror and other troubles with the neighbors, London, Allen Lane, 2016.

(アレス・ブカー・ラクマン スロベニアのマリボル大学)

* 本稿は、下記の文献の第12章を著者・出版社の許可を得て全訳したものである。

Siegel, D. & V. Nagy (Eds.), The Migration Crisis?: Criminalization, Security and Survival (pp. 293-319). The Hague: Eleven International Publishing.